

JICA & APARI フィリピンプロジェクト 活動報告

2009年5月から始まったJICA草の根協力事業支援型が2012年3月で終わります。それに先立ちさらなるステップアップのために、来年度の新規プロジェクトの申請準備をしているところです。

3年間で6回の渡航、派遣メンバーの数も限れた中で、当初の目標にかなり近づいているのではないかと思います。今回は現地に常駐するスタッフのいないシャトル型で行ってまいりましたが、次回では現地常駐スタッフを派遣したいと考えております。

このプロジェクトでは貧困層の地域でARM (=ア`イション`リカ`リー`ミーティング) を継続的に開催することを目指してきました。現在では、ケソン市のタタロンにおいて地域NGOとの協同型のARMと、マカティ市において行政との協同型のARMを実施しています。マカティ市でのARMは、本年8月5日にMADAC (Makati Anti Drug Abuse Council=マカティ薬物乱用防止委員会) において調印式が行われ、10月に第1回が開催されたところです。調印式では、マカティ市の行政関係者、ロータリークラブ(マカティ市と私たちのプロジェクトとの架け橋となってくれました)、FWC代表リッチー氏、JICAフィリピン事務所職員などが参加し、関係者間でARMの理解を深めるとともに、全面的に協力しあうという協議が為され、合意書が締結されました。



8月5日に行われた調印式の様子 MADACにて

このプロジェクトの概要は以下の通りです

事業名: マニラ市貧困層における薬物依存症者に対する回復支援推進事業
 実施機関: 3年間(平成21年5月~平成24年3月) 対象地域: フィリピン マニラ市
 受益者層: 依存症者本人とその家族、その他ワークショップ参加者等約200名

上位目標 (Overall Goal) :

マニラの貧困層の薬物依存症者の回復プログラムとしてミーティング(ARM)が継続的に円滑に行われ、多くの薬物依存症者が回復につながる。

プロジェクト目標 (Project Purpose) :

マニラの貧困層に薬物依存症者のためのミーティング(ARM)が開催される環境が整う。

成果 (Output) :

- 1 支援が必要なフィリピンの貧困層の現状を理解しそのためのネットワークが構築される。
- 2 コアとなる人材が育成される。
- 3 貧困層の地域に薬物依存症の理解とミーティング(ARM)の必要性が認識される。
- 4 ミーティングのテキストが完成し使われるようになる。

活動 (Activities) :

- 1-1 フィリピンの刑事司法システムについて調査する。
- 1-2 地域での社会資源について調査する。
- 1-3 貧困層の薬物依存症者が多くいる地域の現状を調査する。
- 1-4 貧困層の薬物依存症者の回復のためのニーズを調査する。
- 2-1 コアメンバー5名を選定する。
- 2-2 コアメンバーの本邦研修を2回実施する。
- 3 ミーティング(ARM)を開催する。
- 4 ミーティング・ハンドブックの作成。

JICA & APARI フィリピンプロジェクト

第6回派遣(2011/10/23~29)報告

第6回派遣は、本プロジェクトにおける最終渡航になります。派遣メンバーは、近藤恒夫、三浦陽二、山本大、尾田真言、古藤吾郎の5名に加えて、三重ダルクの市川岳仁、精神保健福祉士(天久台病院)の進藤俊明が参加しました。



ファミリー・ウェルネス・センターにて打合せ

- < 第6回渡航スケジュール >
- 10/24(月)午前: JICAフィリピン事務所にて打合せ
午後: ファミリー・ウェルネス・センターにて打合せ(写真)
 - 10/25(火)午前: 保健省、DDBとの会合(写真)
午後: 関係者ミーティング(写真)
 - 10/26(水)午前: MADAC、ロータリークラブとの会合(写真)
午後: カインタ地区の教会訪問(写真)
 - 10/27(木)午前: タタロンでのARMミーティング視察(写真)
午後: MADACでのARMミーティング視察(写真)
 - 10/28(金): フィリピン大学訪問(写真)

MADAC(マカティ薬物乱用防止委員会)、ロータリークラブとの会合の様子
MADACスタッフ、元MADAC委員長で、現マカティ警察署長のサントス氏、ロータリークラブの代表者等の参加のもと、ARMを今後継続していくために、MADAC、ロータリークラブ、そしてFWC及びAPARIが協働で取り組んでいくことを話し合った。また、ロータリークラブのカニサレス氏は、フィリピン国内のさまざまなロータリークラブに発信し、さらなる拡大を目指したいと語った。



大統領直轄のDDB(危険薬物委員会)及び保健省との会合の様子
首都圏マニラに関わらず、フィリピン国内の貧困地域における薬物問題の現状や、ARMを継続可能とするための具体的な取り組みについて話し合いを行った。



カインタ地区の教会' Hope for the World' を訪問
将来的にARM開催の候補地。次回のプロジェクトに向けて調整中。



ディナーミーティング
リッチー氏の父親も参加し、治療をしながら収入を確保する何かよい方法はないか? 農作業はどうだろうかなど活発な意見交換があった。



フィリピン大学のエスタシオ准教授を訪問



タタロンでのARMの様子
現地NGOスタッフにインタビューしたところ「ミーティングを通してコミュニティーが変わってきたこと。地域には問題を抱えていた人が溢れていたが、暴力的な人がそうでなくなったり、服装が変わってきたり、スタッフにとっても怖い存在ではなくなってきた。」と語った。フィリピン大学のエスタシオ先生によるARMの有効性についての評価・研究も始まっている。また、ARMのコアメンバーを通して、参加者たちとフィリピンのNAMメンバーとの交流が生まれ、タタロン地区でNAMミーティングが立ち上がりました。現在、毎週土曜日に開催されている。

ARM開催状況

- タタロン: 第2第4木曜日10時
場所: タタロン・ラーニング・センター
- マカティ: 最終金曜日14時
場所: MADAC マカティ中央警察署



マカティ市での2回目のARMを開催している様子
9/30からMADACで始まったARMが今回はマカティ中央警察署の会議室で行われた。参加者は約30名。さまざまな薬物を使ってきたなかで回復プログラムにつながり、止め続けることができていると話す参加者たちの笑顔がとても印象的だった。